



3/8 2025
(土)

都響・調布シリーズ No.25

TMSO×CHOFU Series

会場：調布市グリーンホール

指揮／大友直人

ヴァイオリン／神尾真由子

シベリウス：

ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 op.47 (約 32分)

交響曲第2番 ニ長調 op.43 (約 43分)

ホールでの
過ごし方

- ◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、北ヨーロッパの国フィンランドを代表する作曲家ジャン・シベリウス(1865~1957)の作品を2つ聴いていただきます。彼は自然の美しさや雄大さを感じさせるオーケストラ曲を書くのが得意でした。今日の2曲もそんなシベリウスらしい魅力をたっぷりと味わえる作品です。

シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47

シベリウスが1904年に作曲したこのヴァイオリン協奏曲は、彼が残した唯一の協奏曲(独奏楽器とオーケストラで演奏する音楽)です。10代の半ば、シベリウスは演奏家になることを夢見てヴァイオリンの演奏に打ち込みます。しかし、“あがり症”だったこともあってプロのヴァイオリニストにはなれませんでした。でも、楽器のことは知り尽くしています。この作品の独奏パートには素早いパッセージや、いくつもの音を重ね合わせて同時にならす手法など、技巧的な要素が盛り込まれました。また、生涯に7つの素晴らしい交響曲(規模の大きなオーケストラ音楽)を残したシベリウスらしく、オーケストラの響きも厚く、ドラマチックなハーモニーを響かせます。

第1楽章の冒頭はオーケストラのヴァイオリンによって霧の中を思わせる響きが聞かれ、すぐに独奏ヴァイオリンが登場して印象的なメロディー(主題)を奏でます。やがてオーケストラも主題を朗々と奏で、情感豊かな旋律の掛け合いへと展開していきます。**第2楽章**はロマンティックなメロディーが美しい緩徐楽章です。**第3楽章**では躍動感あふれるエネルギッシュな音楽となって、フィナーレを迎えます。



Jean Sibelius

シベリウス：交響曲第2番 二長調 op.43

シベリウスが生きていたころ、フィンランドはお隣の大きな国ロシアに支配されていました。シベリウスの音楽も、作曲を始めたばかりの頃はロシアの作曲家の影響を受けていました。しかし、ドイツのベルリンに留学中、あることがきっかけで彼の音楽は変わって行きました。それは、同じくフィンランド出身のカヤヌスという作曲家の交響詩「アイノ」を聴いたことでした。カヤヌスの音楽は、フィンランドへの愛国心に満ちたものだったのです。衝撃を受けたシベリウスは、自分もフィンランド人としての誇りを持ち、自国の伝説などに基いた音楽を作りたいと願うようになりました。フィンランドに帰国後は、フィンランド音楽の土台となるような作品を残そうと、とくにオーケストラ音楽に力を入れました。彼の有名な交響詩「フィンランディア」もその一つです。先ほどもお伝えしたように、シベリウスは全部で7つの交響曲を作りましたが、そのうちのいくつかは、フィンランドの美しい水辺を思わせる透明感、深い森の情景を感じさせるスケールの大きな響きに彩られています。

さて、本日演奏される交響曲第2番はというと、実はイタリアと関係があります。この曲は1901年に書かれました。この年、シベリウスは家族とともにイタリアはジェノヴァのラパッコという地に滞在しています。ヨーロッパの南に位置するイタリアは、北国フィンランドとは違った魅力のある国です。まぶしい太陽の日差しが注ぎ、青空と温かさに恵まれています。シベリウスは地中海に面したこの土地に魅了され、交響曲第2番を意欲的に書き進めました。翌1902年3月には、フィンランドの首都ヘルシンキで、シベリウス自身の指揮で初演されました。この交響曲の明るさと力強さは、ロシアの支配下において苦しんでいたフィンランドの人々の心を震わせ、大きな感動を巻き起こしました。

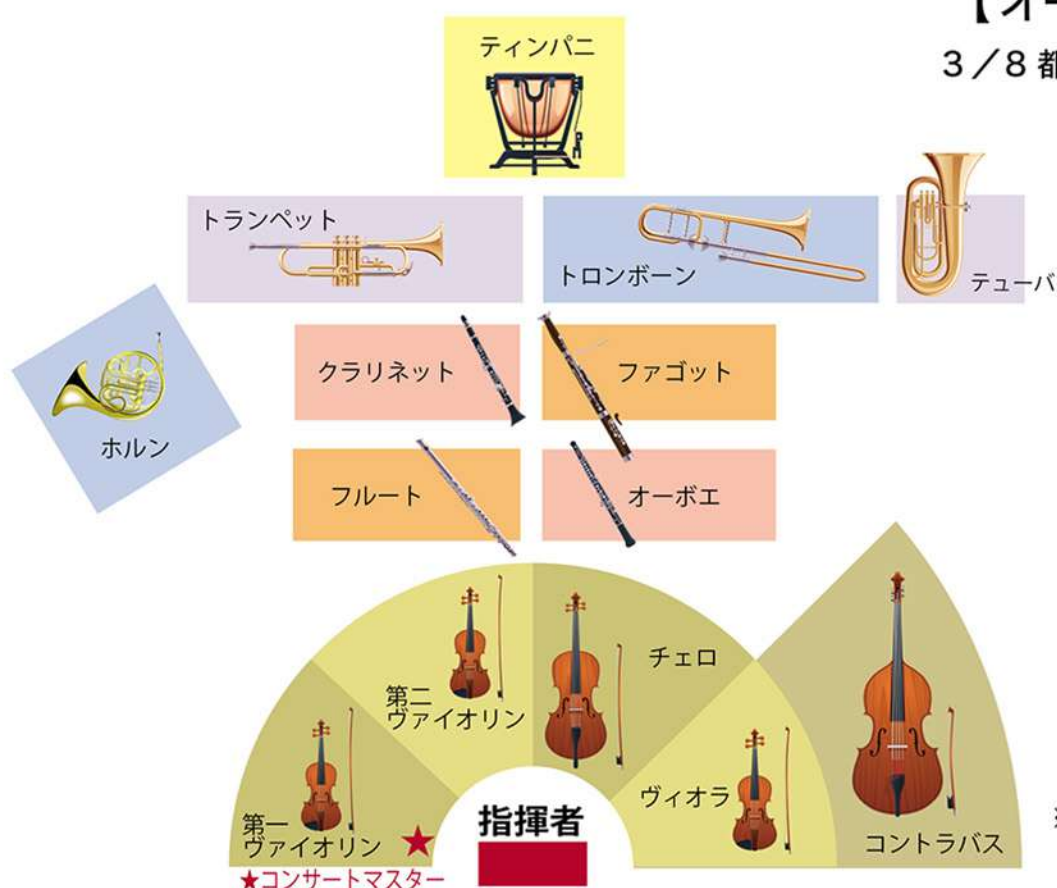


作品は4つの楽章で成り立っています。**第1楽章**は木管楽器が奏でる素朴な民謡風の主題や、弦楽器による流れるような響きが特徴的です。ティンパニの連打と低音の弦楽器のピチカートで始まる**第2楽章**は暗いメロディーが現れ、次第に音楽は高まりを見せていきます。**第3楽章**はザワザワと心が高まるような音楽となり、途中にオーボエによる染み入るようなメロディーが聞かれます。間をおかずに続けられる**第4楽章**では、雄大なメロディーが朗々と歌い上げられ、感動的に幕を閉じます。

文/飯田有抄 (クラシック音楽ファシリテーター)

【オーケストラ配置図】

3/8 都響・調布シリーズ No.25



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。



© Rowland Kirishima

指揮

大友直人 Naoto OTOMO, Conductor

桐朋学園大学在学中に22歳でN響を指揮してデビュー以来、わが国を代表する指揮者のひとりとして、日本の音楽界をリードし続けている。現在は東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザーを務めている。また、大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授として後進の指導にあっている。

邦人作曲家作品の初演やジェイムズ・マクミランの作品やジョン・アダムズのオペラの日本初演など幅広いレパートリーでも知られている。



© Makoto Kamiya

ヴァイオリン

神尾真由子 Mayuko KAMIO, Violin

4歳よりヴァイオリンを始める。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。『ニューヨーク・タイムズ』紙でも「聴く者を魅了する若手演奏家」「輝くばかりの才能」と絶賛される。国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン国立管弦楽団、BBC交響楽団などと共演。

楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。大阪府知事賞、京都府知事賞、出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞などの賞を受賞。東京音楽大学教授。

東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、2025年に創立60周年を迎えました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

東京文化会館（上野）を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。



© Rikimaru Hotta


<https://www.tmso.or.jp/>


都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。ご支援企業については月刊都響をご覧ください。